



霊園を訪れる人を癒やす

藤沢奈央さん【パステル画】

喜らしに広がる
障害者アート
×
企業

明るく咲き誇るヒマワリの大きな絵に迎えられた。大分市久原にある樹木葬の霊園。オリブを墓標とする新しい形の墓場として、今年2月にオープンした。

管理棟内の正面に飾られた縦約1.5m、横約1.4mの絵は、



みずみずしいパステル画を描く藤沢奈央さん

ダウン症の藤沢奈央さん(38) 由布市IIが高校生の時に描いた「ひまわり2003」の原画を拡大したもの。

パステルを何度も重ねて塗り込んだ鮮やかで感性豊かな色使いが目を引く。運営する安東石材店(大分市)の安東修社長(45)は「暗くて寂しい場所という霊園のイメージを払拭したかった」と話す。

接客に手話や点字も使い、性的少数者の対応を学ぶ研修などにも力を入れている。作品は定期的に入れ替え、その間の展示料を支払う。

安東社長は「知り合いに障害者アート関係者がいたので、いつか応援できたら思っていた。今後もうこうした取り組みが続けられるよう社力を上げていきたい」と前向きだ。

大分市内の障害者事業所に通いながら、気が向いた時に筆を握る藤沢さん。花や果物をモチーフにすることが多く、見る人を癒やす作風はファンも多い。雨の合間、両親と初めて訪れ、うれしそうに絵を見上げた。

(三上奈穂子)

随時掲載